平成 31 年 1 月吉日
自治会法人　虹ヶ丘自治会

「ドンド焼きの由来」⇒（だんご焼き）

お正月に飾る門松、しめ縄等は、門、玄関、神棚等に飾り、家内安全、無病息災、商売繁盛、願いを込めて、大晦日の３０日前に、お供え餅と一緒に飾り付けます（注：３１日に飾るのは、一夜飾りといって嫌われ行わない）。年頭には、お神酒、塩、米等を神棚に供え一年間の家内安全等の願い事を称えます。また、２日には「書初め」で、１年間の願い事を毛筆で書きます。

小正月（１月１５日）には、米の粉で作ったお団子（お金がたまりますように小判型のもの、養蚕により生計を立てていた頃は繭玉等）を作り、神棚に飾り祈念しました。

こうして家内安全をお願いした正月飾りと、書初めを、各家庭から道祖神（村境）付近に持ちより、燃やして、残り火で「ダンゴ」を焼き、焼いたダンゴを食べると１年間病気しない、また、書初めが燃え、その灰が高く舞い上がるほど「字」上手になるといわれ、家族、村人全員の１年間の無病息災を願う行事として村の子供を中心に、古くから私たちに伝承されてきました。

相模原では、別名「ダンゴ焼き」と呼ばれ、毎年１月１４日に小学生が帰宅するのを待って、行われてきました。